

2月



カトリック麹町教会

magis

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ~希望に錨を下ろして~



標題の思いが、いつの頃からか、私が司祭職に携わるときの心がけとなりました。

毎年、鎌倉の鶴岡八幡宮の例大祭で、流鏑馬（やぶさめ）神事が奉納されます。知り合いの中学生が出るというので、行きました。

流鏑馬神事で注目されるのは、もちろん射手（いて）です。鎧直垂（よろいひたれ）を着用し、立烏帽子（たてえぼし）と綾籠笠（あやがさ）をかぶり、馬場を疾走する馬にまたがり、三か所に設けられた的を馬上から弓矢で射抜きます。的に矢が当たるたびに、観客から称賛の歓声が沸き起ります。

誰も見ていないところでも

誠実を尽くす

イエズス会司祭
萱場 基

知り合いの中学生は烏帽子、直垂の装束を着ていますが、まだ射手ではありません。二番目の的（二の的）に当たり、地面に落ちた矢を拾う諸役です。観客の目は三の的を目指して疾走する射手を追いかけています。矢

を拾う諸役の彼を誰も見ていません。彼は地面に落ちた矢を丁寧にしかも厳かに両手で拾い上げ、うやうやしく運び、箱に収めます。誰も見ていないのに、その所作は静けさの中に凛として見えます。誰も見ていないのに、その所作は静けさの中に凛として見えます。私は驚愕しました。「美しい…」

く、たとえ見てはいないところでも。

たとえば、聖体拝領が終り、司祭はカリストを水ですすぎ、チボリウムや、パテナとともにプリフィカトリウムで祭器具を片付けます。この所作をも誠実に行うこと

を心がけています。

私は1996年9月21日（聖マタイ使徒の祝日）に、レンジデルカトリック、竹内修一神父、ホアン・アイダル神父とともに司祭に叙階されました。今年は司祭叙階30周年です。誰ひとり欠けることなく司祭職を続けてこられたことに、私たちは感謝しています。私たちに司祭の役務を委ねてくださっている信徒の皆さんに心から感謝し、これからも、どうぞよろしくと申し上げます。

聖イグナチオ教会でのミサ司式奉仕

私は教会で働く司祭ではありません。主にイエズス会が設立した中学高校で使徒職を務めてきました。今もカトリック学校に関わっています。麹町聖イグナチオ教会でミサのお手伝いするようになるのは、2018年からです。5月にギュンタ・ケルクマン神父様と佐々木良晴神父様が相次いで帰天されました。直後に、教会の主任司祭（当時）だった英隆一朗神父様とSJハウスの食堂で話しました。「大変なことになったね。祈ってますから」と言う私に、英神父様はこう答えました。「ありがとうございます。こんな時、信徒さんは熱心に祈っている。イエズス会の神父にはミサを司式する

教会報 MAGIS 2月号

- † 教会黙想会 P2 ~ 3
- † 冬の教会行事とミサ P4 ~ 5
- † [教会活動連絡会便り]
～信徒交流連絡会～ P6
- † Family of St.Ignatius
～ベトナム共同体から～ P7



ために教会に来てほしいんだ」。その時から、聖イグナチオ教会でミサの司式が始まりました。

私は1996年9月21日（聖マタイ使徒の祝日）に、レンジデルカトリック、竹内修一神父、ホアン・アイダル神父とともに司祭に叙階されました。今年は司祭叙階30周年です。誰ひとり欠けることなく司祭職を続けてこられたことに、私たちは感謝しています。私たちに司祭の役務を委ねてくださっている信徒の皆さんに心から感謝し、これからも、どうぞよろしくと申し上げます。

共同祈願

† 2月の祈り

(1月31日18時～2月15日18時)

ロシアによるウクライナ侵攻から
もなく4年になります。
国を守るために闘っている方々を
心に留めましょう。
平和を願う心が世界に広がりますように。

† 四旬節の祈り

(2月21日18時～3月29日18時)

教会は、復活祭に洗礼を受ける志願者と
四旬節を歩みます。
祈りと断食によって心を整え、
ともに復活の喜びにあずかれますように。
また、キリストの平和が世界で実現できますように。

教会黙想会

神の民としてひとつになろう

昨日11月22日（土）10時より主聖堂にて、グエン・タン・ニヤー神父による黙想会が行われました。神父様は日本語、ベトナム語、英語で話をされ、2回の講話の後にそれぞれ15分ずつ黙想の時を持ちました。黙想会の最後をしめくくるミサでは参列者一同、神の民としてひとつになれるよう祈りを捧げました。（YouTube配信あり）

- ・カトリック教会は「普遍性」という本質を持っている。ある特別なグループのためではなく、すべての人々に神の救いを届けるようにつとめている
- ・聖イグナチオ教会は一つの国の信徒だけでなくたくさんの国々の信者が集まる国際的な共同体である
- ・教会の「普遍性」と国際的な共同体であることを再確認し、ともに祈る共同体を目指していきたい

第一講話
国際的なひとつの共同体であることを再認識

- ・すべての人は神の民として招かれている
- ・神の御前にいることを意識しながら、振り返る
- ・自分は神の民の一員としての意識を持っているか
- ・どのようにしたらこの民の家族は互いにもつと支え合うことができるのか

カトリック教会は「普遍性」という本質を持ついます。この道を望む人は誰でも参加できる、ということを再確認したいと思います。具体的に、この教会の国際的な共同体についてお話し

します。週末のミサの数は10回ほど、日本語のほか違う言語でも神さまを礼拝して教会にいたら「普遍性」を感じることができると思います。いろいろな国の人々が集まっていて、これこそ神の国だといつも思っています。すべての人々が教会に集まって神を祀拝する、ということです。

①一緒に祈る共同体を

目指す

『シノドス流の教会』（カトリック中央協議会）の中に、神の民について説明している箇所があります（P31～40）。神の民は三位一体の神の交わりに参加するよう招かれているということです。神さまは孤独ではなく、交わりを持っています。私たちも互いに支え合い、話し合い、わかち合うということです。神の民は神さまに所属しています。そこには靈的な共同体、喜びがあります。これを忘れてしまったら、教会は人間的な組織になってしまいます。

＊マタイ28章16～20節（抜粋）

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」

イエスは天に上げられる

②共同体の一員として
信仰生活を歩む

信仰者は共同体に属していることも意識しなければなりません。神さまはどこにでもいらっしゃるから、自分で祈つてミサに参加しないと関係も大事ですが、それだけでは共同体とのつながりが欠けています。信仰者として共同体の中で成長していくことも大事です。個人的、共同体的、両方のレベルを考えなければいけません。

2025年の世界におけるカトリック信者の人数は14億600万人です。当教会の所属信徒は約1万8000人です。日曜のミサは7つの言語で行なわれています。参列者は日本語は約1300人、英語は約1100人、ベトナム語は約1300人、豊かな家族です。これをどのように考えるのか、2つの聖書の箇所を黙想しながら祈つてください。



前、弟子たちを派遣した。すべての民はイエスの弟子として招かれている。それは特別な権利ではない。誰でもイエスに従うことができます。

*ガラニテヤ3章26～29節

(抜粋)

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。：：そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隸も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」

キリストにおいてひとつになろう。さんざん考えて祈つてみても難しい。でも、キリストの力、恵みによって、ひとつになることができます。

第二講話
国際的な教会、各言語の共同体の課題

・互いに分かち合い、互いに分かちになる
・知り合う機会が少ない

・日本語の共同体、

・高齢化、召し出し不足、活動、グループの継続

・日本語の共同体、

・格不安定、まとめ役がない、活動の場所が足りない

地方の教会に在日ベトナム人の司牧のための協力司祭として出向くことがあります。地方に行けば行くほど、ミサは多言語で行われ自然と共同体ができています。これは聖イグナチオ教会の課題です。神に感謝して、うまく共同体性を保てればと思います。共同体性とは互いに分かち合い、知り合うことです。今まで試みはありました。が、さらに知つてもらうことを意識し、互いの存在に気づくことが大事です。

各言語の共同体の問題について。日本人信徒については高齢化です。聖イグナチオ教会には100を超える活

動グループがありますが、どのグループもメンバーの高齢化で継続できるかが課題のひとつです。召し出し不足もあります。教会で司祭を養成することも大きな課題です。

ベトナム人共同体は約1300人、20代の技能実習生が多く、3～5年と滞在期間が決まっているので、それ帰国してしまいます。日本語も大きな壁です。若者は家族のサポートがなく、現場の仕事は日本人がいないので日本語も覚えられず、日本人の友だちができません。言葉の問題で皆と協力して何かを行うことが難しいです。

信仰を励ますために、マリア祭、子どもたちのお月見祭や信仰教育、青年大会、上智大学でクリスマスマミサを行っています。クリスマスマミサは未信者も多く、宣教の場であります。青年大会は全国から1000人ほどの若者が集まり、土曜日に行っています。結婚式は年間100組ほど、合同での結婚式も多いです。教会は彼らにとつて大事な居場所になっています。

教会祭、国際青年会、大掃除、クリスマス準備、評議員

の活動などをともに行っていますが、これからさらに一緒にできることを考えていきましょう。

*ルカ10章25～37節(抜粋)

「しかし、彼は自分を正当化しようとして、『では、わたしの隣人とはだれですか』と言った。：：『ある人がエルサレムからエリコへ下つて行く途中、追いはぎに襲われた。：：ある祭司がたまたまその道を下つて来たが、その人を見ると、道の向こう側を通り行つた。同じように、レビ人もその場所にやつて来たが、その人を見ると、道の向こう側を通り行つた。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い：：宿屋に連れて行つて介抱した。：：さて、あなたはこの三人の中

とえの言葉です。私たち大きな教会に所屬していますが、皆が隣人であるか考えてほしい。隣人でいるなら、どのように接していけばいいのか、互いに思いやり、支え合うことができるか祈りましょう。

ミサ

黙想会後、ニヤー神父主式でミサが行われました。最後に、高祖敏明主任司祭は「私たちの教会が抱えている問題や課題をわかつていただけたかと思います。イエス・キリストを頭にひとつになることをを目指し、『ともに歩む教会の祈り』を唱えながら、心を合わせて歩んでまいりましょう」としめくくられました。

『わたしの隣人とは誰ですか』。よきサマリア人のた

「わたしの隣人とは誰ですか」。よきサマリア人のた

冬の教会行事とミサ

11月中旬から降誕節に行われた主な教会行事をご紹介します。

● クリスマスバザー

11月30日(日)にバザーを実施、寄付総額(領布金+献金)は、160万2524円、その内60万円をカンボジア・シムリアップ教区タオム教会の活動支援に残金を当教会マリア・テレジア基金にお送りしました。皆様の協力に感謝申し上げます。

段階からグループ内はもうより、他グループ同志も年々つながりが深まっていることを実感しています。教会内と社会の双方に向けて、「ともに歩む教会」として、バザーを継続していくよう願っています。(バザー実行委員会)

● 結婚感謝ミサ

11月16日(日)10時より、高祖敏明主任司祭司式のもと結婚感謝ミサが執り行われました。金婚・銀婚を迎えたご夫妻それぞれより寄稿いただきました。

金婚記念祝福証書を頂いて

婚約の時、結婚の時、聖書朗誦で次の一節で始まる伝道の書3章1～8節を選びました。

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」

上智大学での4年間、米軍払い下げのカマボコ兵舎の司祭館に通いました。受付にいらした

から高齢者・インターナショナルグループ、個人協力者14名。小學生会・中高生会・青年

25年経った大聖年に、一人

娘と3人でローマの四大聖堂を巡ったあの時。

そして今、50年を迎え、時の流れの速さに驚いています。また、すべての時を妻とともに過ごせたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。機会があれば、石神井のロヨラハウスに戻られたカンガス神父様にお伝え出来ればと思っています。

アシジのフランシスコ・スクララ・S



● 新年炊き出し

まだまだ至らぬところの多い二人ですが、イエスさまが常に説かれていた「愛」を中心のよりどころとして、助け合って生きていきたいと思っています。

これからも、多くの方々が、神さまのお導きの下に、幸せなご家庭を築かれることを、いつもいつも願っています。

フランシスコ
スクララ

それからもう25年。思えば意見がぶつかることも多々ありました。それでも、二人が協力し合って、一歩ずつ温かい家庭を作り上げることが出来たのは、本当に神さまのお導きであると、ごミサにあざかりながらくづく感じておりました。

まだまだ至らぬところの私たち夫婦は、昨年11月16日に、そろつて銀婚式の祝福のごミサにあずかることが出来ました。

これからも、多くの方々

が、神さまのお導きの下に、

幸せなご家庭を築かれるこ

とを、いつもいつも願っていま

す。

これからも、多くの方々

が、神さまのお導きの下に、

幸せ

教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議」で、「教会活動連絡会の機能・運営の強化」について、対話を重ねてきました。前号に引き続き、当教会にある連絡会を紹介します。

信徒交流連絡会

当教会へ、さまざまなものを持って来る方々のために、信徒同士、人と人がつながる手伝いを意識し活動しているグループの連絡会です。つながりを広げ、交流を深め、信仰生活を祈りとともに歩み、イエスにつながる教会共同体として仲間意識を高めることを目標にしています。

信徒交流連絡会は年2回行います。メンバーは、「イグナチオ朝祷会」「ウエルカムテープル」「受け皿グループ」「教会案内グループ」「シャロンのバラの会」「青年会」「曜サロン」「はじめの一歩」「ふれあい広場」「メリエンダ」「メルキゼデクの会」の11グループです。各グループで情報の共有をして、連携体制を強め、教会全体行事へ

の協力、課題についての意見交換などを、自由に話し合う場です。

日曜サロンで広がる交流

関連グループの連携・協力による活動の実践例が“日曜サロン”です。原則第2・第4日曜9時からヨセフホールで開催しています。主日ミサにあづかった後の分かち合い、久しぶりに教会へいらした方、おひとりで来られた方への声掛けへつながる手伝い、入門講座後の歓談など、信徒同士の交わりによって、仲間づくりの場行います。メンバーは、「イグナチオ朝祷会」「ウエルカムテープル」「受け皿グループ」「教会案内グループ」「シャロンのバラの会」「青年会」「曜サロン」「はじめの一歩」「ふれあい広場」「メリエンダ」「メルキゼデクの会」の11グループです。各グループで情報の共有をして、連携体制を強め、教会全体行事へ

が作られています。

新たに受洗・転入・改宗された方を対象に、年2回“教会オリエンテーション”を主催している「受け皿グループ」は、日曜サロンの中で“ミニオリエンテーション”を実施しています。教会奉仕活動や講座などの情報提供の他、信仰生活上の質問・相談を「信仰のしおり」を参考に受け皿メンバーと先輩信徒がお答えしています。

教会を訪れるさまざまの方に毎月一回“教会案内ツアーハイ”を行っている「教会案内グループ」では、“日曜サロン”が案内後の休憩と歓談の場になっています。“教会案内グループ”は巡礼企画も担当し、多くの方とつながりを持つ活動をしています。

「メルキゼデクの会」は、現代社会を取り巻くさまざまな問題について学び、福音的な視点から問題への対応方法を考え行動につなげることができるよう、講演会や学習会を行っています。

「ウエルカムテーブル」は、毎週日曜に教会正門と主聖堂横のテーブルにて、初めての訪問者や教会に関心のある方をお迎えし、他の活動グループにつなぎ教会内を案内しています。

「メリエンダ」は、ミサ後の信徒の憩いの場となるよう飲み物と軽食のサービスを、毎週日曜9時からテレジアホールで提供しています。

「ふれあい広場」は、信徒の要望を信徒同士で解決していくことを目的とし、第2回廊で活動しています。キリ

が作られています。

「イグナチオ朝祷会」は、朝食をともにし交流する場として、毎週金曜7時ミサ後から約一時間の集まりが半世紀以上続いています。

「シャロンのバラの会」は、現代社会を取り巻くさまざまな問題について学び、福音的な視点から問題への対応方法を考え行動につなげることができるよう、講演会や学習会を行っています。

「青年会」は、高校卒業後、30歳以下の青年が集い、月に一回程度、分かち合いやミサを行い、四ツ谷の土手での花見などで交流しています。毎年行われる“20歳を祝う会”は、青年会主催です。

今後は、外國語圏のグループにも参加いただけるよう

な体制を検討しています。

出会いながら、「ともに歩む教会」の実現を目指していきましょう。

「ともに歩む教会」を目指して

各グループでは、それぞれに活動の趣旨に沿った形で

「ふれあい広場」は、信徒の要望を信徒同士で解決していくことを目的とし、第2回廊で活動しています。キリ

が作られています。

「メリエンダ」は、ミサ後の信徒の憩いの場となるよう飲み物と軽食のサービスを、毎週日曜9時からテレジアホールで提供しています。

「青年会」は、高校卒業後、30歳以下の青年が集い、月に一回程度、分かち合いやミサを行い、四ツ谷の土手での花見などで交流しています。毎年行われる“20歳を祝う会”は、青年会主催です。

今後は、外國語圏のグループにも参加いただけるよう

な体制を検討しています。

出会いながら、「ともに歩む教会」の実現を目指していきましょう。



～ベトナム共同体から～

今年もベトナム共同体は上智大学にてクリスマスを祝い、12月24日に2回のミサ、25日は夕方にミサをとり行いました。平日にもかかわらず参加者は非常に多く、教会の活動に日頃から参加している信者のみならず各地から、多くの方々がミサにあずかるために集まりました。年末の12月27日には、若い家庭を対象とした勉強会を開催しました。子どもの教育、家庭生活におけるさまざまな課題について分かち合いを行い、約20家庭と多くの子どもたちが参加し、感謝のミサをもって締めくられました。

1月1日元日は、神の母聖マリアの祭日であり、新年の平和を祈るミサには昨年と比べ予想を遥かに上回る多くの信者が集まりました。そのため主聖堂に入ることができず、屋外で立ったまま参加される方も多数おられました。

聖イグナチオ教会は降誕祭、復活祭、新年等の特別な祝日にベトナム語によるミサが行われる数少ない教会であるため、各地から多くの信者が集まつてくる状況です。新年、1月3日「イエスのみ名の祝日」には仕事の聖化のミサ及び結婚ミサが行われ、52名が洗礼を受け、27組のカップルが結婚の秘跡にあずかりました。

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

12月(12月4日開催)

- 2026年度教会テーマは
【ひとつになろう キリストのうちに～ともに歩む教会へ～ Journeying together as one to Jesus】となりました。
- テーマは、複数年度の使用を念頭に置いています。

1月(1月8日開催)

- ヒマラヤ杉下の馬小屋は、日本人とベトナム人の有志の方々の奉仕により手際よく設置されました。また、片付けには英語グループからの有志も加わり、最後まで丁寧に進められました。
- 英語の主日ミサは試行的に、四旬節第1主日(2月22日)より、前日の21日(土)から約半年間、現在の日曜12:00(主聖堂)に加えて、土曜17:30にマリア聖堂でも行う予定です。なお、聖堂の予約状況によっては調整が必要な日もあるため、対応方法を検討してまいります。

●財務報告●

- 10月19日(日)の「世界宣教の日」のための献金1,225,481円は、ローマ教皇に送られ世界中の宣教地に援助金として届けられます。
 - 11月16日(日)「ミャンマーダー」の献金1,177,025円を東京教区を通じてミャンマーの教会へ送金しました。
 - 12月7日(日)「宣教地召命促進の日」の献金1,360,218円はローマ教皇に送られ、全世界の司祭養成のために使われます。
 - 2025年の司祭召命のための「一粒会」への献金は955,728円になりました。
- 皆さまのご協力に感謝いたします。

●クリスマスと正月のミサの状況●

クリスマス・正月のミサ参加人数(概数)は、次の通りでした。

12月24日(水)	5,840人(うち日本語2,580人)
12月25日(木)	4,750人(うち日本語2,050人)
1月1日(木)	4,920人(うち日本語1,820人)
	(年越し 0時ミサ300人)

●『信仰のしおり』アンケート集計報告●

2025年11月22日(土)～12月21日(日)に実施した『信仰のしおり』のアンケートは、回答数349件・回収率26.37%(10月教勢調査の日本人ミサ参加人数1,323人を基準に算出)となりました。今回のアンケートには、しおりの内容だけでなく、教会生活や典礼、共同体の課題、そして信徒一人ひとりの祈りや思いなど、多様で貴重な声が寄せられました。ご協力くださった皆さんに、心より感謝いたします。

●ペドロ・アルペ神父の列福祈願ミサ●

開催日時: 2025年2月11日(水・祝)11:00～

場所: マリア聖堂

主司式: 佐久間 勤 イエズス会日本管区長

説教: ホアン・アルティリヨ神父 宇部教会協力司祭

主催: イエズス会日本管区本部

*ご自由にご参加ください

●献血のお知らせ●

日時: 3月1日(日)10:00～

場所: ヨセフホール

日本赤十字社による献血を行いますので、ご協力ください。詳しくはポスター、チラシでお知らせします。

2月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

1 (日) 年間第4主日	
2 (月) 主の奉獻の祝日	
3 (火) 福者ユスト高山右近の記念日	
4 (水)	イエズス会社会司牧センター 2026年新春セミナー テーマ:沈黙を破る -若手外国人労働者が語る「見えない不正」- 講師:ダン・ティ・ジェン・フーン アシジの聖フランシスコ宣教修道女会
5 (木) 日本26聖人殉教者の記念日	
6 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
8 (日) 年間第5主日	新受洗者と転入者のためのオリエンテーション 11:15 ヨセフホール 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付9:30~
11 (水)	世界病者の日
15 (日) 年間第6主日	日曜サロン・ミニオリエンテーション(受け皿) 11:00~12:30 ヨセフホール
18 (水) 灰の水曜日(大斎・小斎)	ミサと灰の式 7:00 12:00 19:00 四旬節の期間中愛の献金
20 (金)	十字架の道行 18:45 マリア聖堂(聖週間前までの毎金曜日)
22 (日) 四旬節第1主日	洗礼志願式 10:00 日曜サロン・ミニオリエンテーション(受け皿) 11:00~12:30 ヨセフホール
25 (水)	傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後

『マジス』3月号は3月8日(日)発行予定です。

主任司祭:高祖 敏明
助任司祭:ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニヤー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔
協力司祭:ジェリー・クスマノ
ハビエル・ガラルダ
グエン・ヴァン・テー
閑根 悅雄
マヌエル・シルゴ
神学生:アントニオ・マリオ・ダ・
コスタ・ソアレス
シスター:マルセラ・ロサス
フロール・フロレセ
ジェスリン・ブエンディア
デイン・グエン・ゴック・
トゥエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂

7:00/12:00/18:00

【土、日曜日】主聖堂

土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (英語) /13:30 (スペイン語) /

15:00 (ベトナム語)

【月の第1日曜日】マリア聖堂

12:30 (ポルトガル語) /16:00 (ポーランド語)

【月の第2・4日曜日】マリア聖堂

16:30 (インドネシア語)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麹町6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

<http://www.ignatius.gr.jp>

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。